

# 下関商業高等学校 野球部「S」

2015.9  
まちの誇り  
ぶち★きらり

夏のスローガン

## GET TO THE TOP! (頂点をとる!)



20年ぶりに夏の甲子園の土を踏んだ下関商業高校(下商)野球部。甲子園で戦い抜き、皆で1勝を勝ち取った野球部の姿を取材しました。

悔しさをバネにつかんだ夢  
下商は今年、創立131年を迎えました。硬式野球部は明治31年に創設されて以来、甲子園では春夏合わせて優勝1回、準優勝2回の輝かしい成績を誇ります。

今年の春の大会では県決勝大会まで進むも、準決勝で敗退。悔しい思いから努力を重ね、厳しい練習を乗り越え、この夏、甲子園出場を勝ち取りました。

### チームの強みは「バランス」

チームをまとめ、時に厳しく導いてきた佐々木大輔監督。チームワークを大切にするため、選手たち一人ひとりの役割を決め、責任感を持たせてきました。役割は、キャプテンやグラウンド整備、データ集計など



下商伝統の「S」

選手全員を見ることができるキャッチャーとして皆を引っ張れるように、自分の気分に左右されないように、いつでも明るく声を出してきました。

坂口来斗捕手

野球には人間関係や精神面が大きく影響するので、日頃の生活から意識してきました。夢の舞台に足を踏み入れることができ最高でした!

佐々木悠司監督

## 甲子園出場の夢をつかむために、皆で戦ってきました

日頃から、何事にも目的意識を持って取り組んできました。試合ではリードを許さず、勝ち急がないようにしてきました。

村長雄祐投手

去年1回戦で負けたことが悔しくて、一年間頑張ってきました。甲子園出場の目標が達成でき、最高でした!

森元奏投手

プレーしやすいチームです。そんな野球部として、人に見られても恥ずかしくない行動をとるよう、心掛けてきました。

高嶋海斗投手

17通りあるとのこと。例えば、係だけがグラウンド整備をするのではなく、皆を動かして整備する。そうやって周りを見る力をつけ、協調性を鍛えてきたようです。こういった訓練や練習の積み重ねにより、落ち着いてプレーができる、バランスが取れないチームに成長していきました。

### 憧れの舞台「甲子園」とその後

1戦目、3年生の森元奏選手が延長11回の攻撃でサヨナラ打を放ち、初戦を突破。選手たち全員の粘り強い戦いでついに1勝です。2戦目では3年生の富岡泰宏選手が2安打を放つも、なかなか点につながらず、残念ながら敗退。試合終了後、選手の懸命なプレーに熱い声援を送ってきた人々の口からは「ありがとう」の言葉が贈られました。

「S」を引っ張ってきた佐々木悠司監督は「たくさんの人に支えられ、憧れの舞台で楽しく野球ができました。これからの人生に生かしたいです」と振り返りました。これからも「S」の伝統を継ぐ下商野球部の活躍に期待が寄せられます。